病気の不安、劇で解消

八尾　患者、看護婦らが劇団

ニック（松尾美田紀院長）に患者や看護婦らでつくる劇団「松ぼっくり」が発足、七月の公演に向け練習に励んでいる。

同医院では診察時間以外に医師が外来患者と接する時間を持つため講演、高血圧教室を開いたり、七宝焼、書道教室などを設けたりしている。

劇団は「笑い」と「生きがい」療法の一つとして、松尾院長が呼びかけて結成。患者、看護婦ら二二人から成り、三歳から二四、八十一歳。放送作家の篠崎博さん（横浜市在住）に頼んで脚本をつくり、昨三月末から毎週二曜三、金曜日に練習、ことし二月末に旗揚げ公演する市文化会館で初の上演をすることを決めた。

八尾を舞台に「松屋敷」と呼ばれる邸宅に住む元大学教授と近所の人たちとのふれ合いを描いた現代劇。元教授が心筋こうそくの発作で倒れる場面があるほか、セリフに医学用語も頻繁に登場する。松尾院長は一劇団で病を演じることで病気をより深く理解できる（ことではないか）と劇を思いつきました。旗揚げ後もいろいろな病気をテーマに続けて、きょうは一と語っている。

劇を演じることで病気の不安を取り除き、生きる励みにしてもらおうと八尾市東本町三の医院。松尾クリニックの患者や看護婦ら